

令和4年度 園評価書

園番号 園名 静岡市立由比こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

| 1 教育・保育目標   | 2 重点目標                  | 評価指標   | 園説明   | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員から  | 改善策 (来年度の具体的な取組目標)   |
|-------------|-------------------------|--|---|------|-------|---|--|
| ここにこ笑顔で元気な子 | ワクワクがいっぱい<br>楽しい思いをつなげる | ・自分なりに試行錯誤して遊んでいる                              | ・子どもが興味を持ち遊び出せるように、目に付きやすい場所に用具や環境を準備し、保育者が仲間となり一緒に遊びを進めていく中で、自分なりに考えて工夫して遊んでいる<br>▲園児数が少なく意見やアイデアの幅が狭いため、仲間としての保育者の役割が重要となる。遊びが深まらないところがある | B    | A     | ・少人数の園だからといって、大人数の集団と比べて評価をしないほうが良い。少人数の中で個々の良さを生かすことを意識していく。今、人との関わりが少なくても小学校へ行き集団に入れば育つ。子どもが自分は大切にされていると思うことが大事なので一人一人を見て評価をしてほしい | ・保育者も仲間となり一緒に楽しみ、考えたりアイデアを出したりし、遊びがよりおもしろくなるような環境構成、再構成をしていく |
|             |                         | ・自ら進んで身近な人と挨拶を交わす                              | ・登園時、自分から大きな声で挨拶をする姿がみられる。戸外遊び中、地域の方を見かけると進んで挨拶をしている。地域の方が子ども達に声をかけてくださることが増えた<br>・「ありがとう」も自然に言えるようになってきている                                 | A    | A     | ・子どもが“自分は大切にされている”と感じる時間は貴重である<br>・挨拶ができることは良い。大人が声をかけ続けていく   | ・今後も保育者が進んで挨拶をし、子ども達の見本になるようにする。子どもの元気に挨拶をする姿を価値づけていく        |
|             |                         | ・自分の言葉で思いや考えたことを伝えるとともに、友だちや保育者の話を興味をもって聞こうとする | ・自分の思いや考えを保育者や友達に伝えている。困ったことや要望なども、保育者が伝え方を繰り返し知らせたこと言えるようになってきた<br>▲相手を見て、心を寄せて話を聞くことが苦手である  | B    | A     |   | ・話を集中して聞けるよう、興味を持てるような内容、話し方、場所、時間など工夫していく                   |

II 各領域に関わること

| 大項目              | 中項目                        | 評価指標                                   | 園説明   | 自己評価 | 関係者評価 | 園関係者評価委員から   | 改善策 (来年度の具体的な取組目標)   |
|------------------|----------------------------|--|---|------|-------|--|--|
| 1 こども園における教育及び保育 | (1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育 | ・「これをやってみよう」という思いをもち遊びを楽しんでいる          | ・子どもの発達、興味を捉えた環境を構成したり、色々な素材を用意することで「やってみよう」という思いを持ち遊びを楽しんでいる。楽しい経験が他の遊びへの意欲につながっている<br>▲遊びが持続発展しない。「やりたい」思いはあっても、友達や保育者の遊びに流れることがある                  | B    | A     | ・使用できない遊具があるが、巧技台を園庭に配置し環境が改善されている   | ・遊びが持続しないのはどうしてなのか、子どもの姿、環境、保育者の支援について、深く原因を探りPDCAで改善していく<br>・環境図をもっと意識して活用できるようにする  |
|                  | (2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮  | ・生活の基礎基本を身に付けようとする                     | ・生活習慣について保育者が繰り返し丁寧に知らせることでやり方を覚え進んで行っている。できることが増え自信につながっている<br>▲少人数のためマイペースになりやすい。短時間でできるような時間を区切ったり、集中できるよう援助を工夫したりしていきたい                           | A    | A     | ・子ども達は大切にされていると感じていると思う。この園だからこそこできることだと思う   | ・一人ひとりの様子を見ながら、その子にあった援助をしていく。関わりすぎないよう意識しながら、少しずつ自分でできることを増やし自信をもてるようにする            |
|                  | (3)環境を通して行う教育及び保育          | ・地域の文化や自然、人々と触れ合い、経験したことを遊びや生活に取り込む    | ・由比の文化や自然、人々と触れ合うことで、由比の良さや人々の温かさを感じることができた。神社や、中学校で拾った自然物で楽器やケーキを作り遊びに取り入れ楽しんだ<br>▲今後も、地域に積極的に出かけ、自然や文化に触れたり、交流したりしていきたい                             | B    | A     | ・訓練の積み重ねが大事だと思う。こども園も中学校への避難などいろいろな方法を繰り返し行うと良い<br>・地域と交流することが大切であり、何かあった時周りに助けを求められることができる環境になっていることが大事である      | ・様々なところに計画的に Outreach、由比の人々や自然文化に触れられるようにする。そこで経験したことを遊びや生活に取り込めるようESDの視点を持ち保育を進めていく |
| 2 安全管理・指導        | (1)事故防止・防災                 | ・指示を聞き、落ち着いて自分で身を守る行動をとる               | ・地震、火事、不審者など様々な想定した訓練を繰り返し行うことで避難方法が身に付きつつある  | B    | B     | ・時間の調整をし全職員で会議を行うことは大変だと思う。それを実施できているところが良い  | ・様々な想定で訓練を行い、自分の身は自分で守るという意識をもてるようにする  |
| 3 保健管理・指導        | (1)健康教育の充実                 | ・手洗い、うがいの習慣を身に付ける                      | ・手洗いやうがいの大切さについて知らせたり、中学校の養護の先生に保健指導をしていただいたりしたことで、丁寧に言うようになり身についてきている  | A    | A     |  | ・手洗いうがいがしっかりできているか確認し、必要に応じて支援する   |
| 4 特別支援教育・保育      | (1)支援体制づくりの推進              | ・ケース会議で情報を共有し、支援方法を検討している              | ・月案検討、ケース会議時に、全職員が参加し研修するようになったことで子どもの姿、支援方法について共通理解が深まった<br>▲その後の子どもの姿について話し合う時間を作りたい  | A    | A     | ・中央こども園と交流をしているが、園以外で会った時どういう反応をするのか気になった<br>・子どもは自分からは声をかけないが気づいてはいる。一緒に小学校に行くことを楽しみにしている<br>・他園との交流はもっと増やしてほしい | ・子ども一人ひとりを丁寧に見て、より良い発達を促せるよう継続的に支援していく   |
| 5 組織運営           | (1)組織体制の充実                 | ・職員がお互いに情報を共有し合い、連携をとりながら教育保育を進めている    | ・全職員で会議や研修を行うことで情報の共有ができやすくなり、各自が役割を自覚し連携を取りながら保育できるようになった<br>▲計画の変更が周知されていないことがあった   | B    | A     |  | ・今後も、時間や内容など研修方法を工夫し情報を共有していく<br>・計画の変更については、書面で知らせ伝達するなど確実に実行                       |
| 6 研修             | (1)研修体制の充実                 | ・「おもしろそう」「もっとやってみよう」と思える環境づくりに全職員で取り組む | ・月の反省の書式を変更し、ポイントを絞って振り返られるようにした。全職員がふせんを使い様々な意見を出すことで、多角的視点で子どもを捉えられるようになり、環境づくりにも活かされている<br>▲常に、発達に合ったねらいや活動を意識していきたい                               | B    | B     | ・小学校の見学、体育館で1年生と遊ぶなどの交流活動は、由比と由比中央こども園で一緒にやっていたら良いと思う  | ・月、期の反省について子どもの姿、発達、ねらいなど全員で振り返り見直し改善していく  |
| 7 教育・保育環境整備      | (1)教育・保育環境の充実              | ・日々振り返りを行い、子どもの興味関心に合った環境を用意する         | ・今日の保育を振り返り、日誌に子どもの楽しんでいる姿、明日へのつながりを記入し、翌日の環境を構成している。子ども達は、遊びの続きを楽しんでいる   | B    | A     | ・地域と関わる体験は大事だと思うので、これからも続けていってほしい  | ・環境図を使い、明日の環境を職員に周知し構成、再構成できるようにする   |
| 8 家庭との連携・協力      | (1)家庭教育への支援機能の充実           | ・共に子育てをする仲間として、情報を共有する時間と相談しやすい関係を作る   | ・お迎えや面談時の会話、またドキュメンテーションを作成し、子ども達の活動や楽しむ姿、成長を共有している。伸ばしたいところについても情報を共有し、家庭と連携して子どもに関わっている   | A    | A     |  | ・保護者に、子どもの姿や成長について、送迎時の会話、お便り、ドキュメンテーションなど様々な方法で発信していく                               |
| 9 近隣の学校との連携      | (1)近隣の園との連携の推進             | ・園から小学校へと円滑な接続をしていく<br>・近隣こども園との交流を図る  | ・校庭散歩、図書館見学、学校探検など小学校との交流を行った。また、公開保育で小学校の校長先生に指導講評をいただき、こども園の間に身につけたい力や目指すべき姿が明確になった<br>・月1回由比中央こども園と、また蒲原西部こども園と交流をし、同年齢の友達と一緒に遊ぶ楽しさや面白さ、嬉しさを味わっている | A    | A     |  | ・近隣こども園(由比中央・入山・蒲原西部)との交流を回数を増やし計画実施する<br>・由比中央こども園と一緒に小学校との交流を計画実施する                |
| 10 地域との連携        | (1)信頼される園づくりの推進            | ・地域の文化や人材に触れ、園だけではできない体験をする            | ・由比散策、花祭り、座禅、デイサービス訪問、漁港見学など地域の自然や文化、人々と触れ合う中で、心を動かす体験をすることができた   | A    | A     |  | ・地域に積極的に出かけ、様々な体験ができるようにする<br>・地域の情報をキャッチし園の活動につなげていく                                |